

# 特定非営利活動法人 そーけん 定款

## 第1章 総則

### (名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人そーけんという。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を 大阪市内 に置く。

### (目的)

第3条 この法人は、高齢者や障がいを持つ人々が健康で文化的に生活でき、かつ、地域コミュニティの一員として楽しく共生できるよう、関係官公庁・地域包括支援センター・支援事業者・地域の保健・医療・福祉サービス・住民等との綿密な連携を図りながら、複合的な共生型の福祉・介護サービス事業を行う事により、もって地域福祉の向上、地域社会の安全と発展に寄与することを目的とする。

また、地域住民すべてに対して、葬儀全般に関する研究、情報収集と提供、並びに、葬儀前後に生じる各種手続きや問題に対処できる知識・システムの確立と提供の事業を行うことにより、もって地域の社会教育の推進並びに消費者の保護に寄与することを目的とする。

### (活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、特定非営利活動促進法(以下「法」という)第2条別表のうち、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 地域安全活動
- (5) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (6) 子どもの健全育成を図る活動
- (7) 消費者の保護を図る活動

### (事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
  - ① 介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号事業、介護予防サービス事業、居宅介護支援事業、地域密着型サービス事業、地域密着型介護予防サービス事業、及び介護予防・日常生活支援総合事業
  - ② 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障がい福祉サービス事業、地域生活支援事業、特定相談支援事業、及び一般相談支援事業
  - ③ 児童福祉法に基づく障がい児相談支援事業、及び障がい児通所支援事業
  - ④ 上記各号にかかる次の1乃至9の事業
    1. 生活支援サービス(日常生活支援)事業
    2. 配食サービス事業
    3. 地域コミュニティ・まちづくり推進事業

4. 自家用自動車有償運送事業、特定旅客自動車運送事業
  5. 一般乗用旅客自動車運送事業、患者・要介護及び高齢者等の搬送業務
  6. 福祉、介護に係る教育研修事業
  7. 人材育成に係る教育研修事業
  8. 視察・実習・研修・ボランティア受け入れ事業
  9. 高齢者・障がい者雇用やその家族の支援事業
- ⑤ 葬儀費用、葬儀様式、葬儀市場及びその周辺市場等の調査、情報収集、情報提供
  - ⑥ 終活に関連する講習・研修・相談会等の開催事業
  - ⑦ その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- (2)その他の事業
- ① 葬儀に関わる紹介業
  - ② 葬祭業に関するコンサルティング業
  - ③ 葬祭に関する各種催事の企画、運営、コンサルティング業
  - ④ 飲食に関する事業、飲食店営業
  - ⑤ リハビリテーション施設、トレーニング施設等の運営、管理
- 2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、利益を生じた場合は、同項第1号に掲げる事業に充てるものとする。

## 第2章 会員

### (種別)

第6条 この法人の会員は、次の3種類とし、正会員をもって法上の社員とする。

- (1)正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2)賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人又は団体
- (3)協賛会員 この法人の事業を協賛するために入会した個人又は団体

### (入会)

第7条 正会員又は賛助会員、協賛会員として入会しようとするものは、入会申込書を代表理事に提出し、代表理事の承認を得なければならない。代表理事は、会員の申込みについては、正当な理由がない限り入会を認めるものとするが、入会を認めない場合は、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

### (入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

### (退会)

第9条 会員は、退会届を代表理事に提出し、任意に退会することができる。

2 会員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、退会したものとみなす。

- (1)本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (2)会費を2年以上納入しないとき。

### (除名)

第10条 会員が、次の各号のいずれかに該当する場合には、総会において、社員総数の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。ただし、その会員に対し、議決前に弁明の機会を与えな

ればならない。

- (1)この定款に違反したとき。
- (2)この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第 11 条 会員が納入した入会金、会費及びその他の抛出金品はその理由を問わず、これを返還しない。

### 第3章 役員

(種別)

第 12 条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上 10名以内
- (2) 監事 1人
- 2 理事のうち、1人を代表理事とする。
- 3 理事及び監事は、総会において選任する。
- 4 代表理事は、理事の互選により定める。
- 5 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 6 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第 13 条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 代表理事以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 理事は、代表理事に事故あるとき又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
  - (1)理事の業務執行の状況を監査すること。
  - (2)この法人の財産の状況を監査すること。
  - (3)前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
  - (4)前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
  - (5)理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期)

第 14 条 役員の前任期は、2年とする。但し、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とし、また、任期満了後後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の前任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残

存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第15条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第16条 役員が次の各号のいずれかに該当するときは、総会の議決により、これを解任することができる。但し、理事会において、その役員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1)心身の故障のため、職務の執行に堪えられないと認められるとき。
- (2)職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第17条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

## 第4章 総会

(種別)

第18条 この法人の総会は、通常総会と臨時総会とする。

(構成)

第19条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第20条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1)定款の変更
- (2)解散
- (3)合併
- (4)事業計画及び活動予算並びにその変更
- (5)事業報告及び活動決算
- (6)役員を選任又は解任、職務及び報酬
- (7)入会金及び会費の額
- (8)長期借入金その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9)事務局の組織及び運営
- (10)その他運営に関する重要事項

(開催)

第 21 条 通常総会は、毎事業年度1回開催する。

2 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1)理事会が必要と認めたとき。
- (2)正会員の5分の1以上から会議の目的を記載した書面によって開催の請求があったとき。
- (3)監事が第 13 条第5項第4号の規定により招集したとき。

(招集)

第 22 条 総会は、代表理事が招集する。但し、前条第2項第3号の規定による場合は、監事が招集する。

2 代表理事は、前条第2項第2号の規定による請求があった場合は、その日から30日以内に臨時総会を開かなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面または電磁的記録をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 23 条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第 24 条 総会は、正会員の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第 25 条 総会における議決事項は、第 22 条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議決事項は、この定款で定めるもののほか、出席正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところとする。

3 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議決に加わることができない。

(表決権等)

第 26 条 やむを得ない理由のため、総会に出席できない正会員は、あらかじめ書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

2 前項の場合における前2条の規定の適用については、その正会員は総会に出席したものとみなす。

(議事録)

第 27 条 総会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成し、これを保存しなければならない。

- (1)日時及び場所
- (2)正会員の現在数
- (3)出席した正会員の数(書面表決者及び表決委任者については、その旨を明記すること。)
- (4)審議事項及び議決事項
- (5)議事の経過の概要及びその結果
- (6)議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、その会議において出席した正会員の中から選任された議事録署名人2名以上が、議長とともに記名押印しなければならない。

## 第5章 理事会

(構成)

第28条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第29条 理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(開催)

第30条 理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の3分の1以上の理事から会議の目的を記載した書面または電磁的記録によって開催の請求があったとき。

(招集)

第31条 理事会は代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2号の規定による請求があったときは、その日から5日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時場所、目的及び審議事項を記載した書面または電磁的記録をもって、少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第32条 理事会の議長は、代表理事があたる。

(議決等)

第33条 この法人の業務は、理事の過半数をもって決する。

## 第6章 資産、会計及び事業計画

(資産)

第34条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 財産目録に記載された財産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第35条 この法人の資産は、次の各号に掲げる事業に区分する。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
- (2) その他の事業

(資産の管理)

第36条 資産は、代表理事が管理し、その方法は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

(経費の支弁)

第37条 この法人の経費は、資産をもって支弁する。

(会計の区分)

第38条 この法人の会計は、次の各号に掲げる事業に区分する。

- (1) 特定非営利活動に係る事業
- (2) その他の事業

(事業計画及び予算)

第39条 この法人の事業計画及びこれに伴う活動予算は、代表理事が作成し、総会の承認を得なければならぬ。これを変更する場合も同様とする。

(予備費の設定及び使用)

第40条 前条に規定する予算には、予算超過又は予算外の費用に充てるため、予備費を設けることができる。  
2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第41条 第39条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。  
2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(事業報告書及び決算)

第42条 代表理事は、毎事業年度終了後3か月以内に、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書を作成し、監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。

(長期借入金)

第43条 この法人が資金の借入れをしようとするときは、その事業年度の収益をもって償還する短期借入金を除き、総会の議決を経なければならない。

(事業年度)

第44条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

## 第7章 事務局

### (設置)

第45条 この法人の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局には、事務局長その他の職員を置く。

3 事務局の職員は、代表理事が任免する。

### (書類及び帳簿の備置き)

第46条 事務所には、法第28条に規定される書類のほか、次に掲げる書類を常に備えておかなければならない。

(1) 会員名簿及び会員の異動に関する書類

(2) 収益、費用に関する帳簿及び証拠書類

## 第8章 定款の変更及び解散

### (定款の変更)

第47条 この定款の変更は、総会において正会員総数の2分の1以上が出席し、その出席者の4分の3以上の議決を経なければならない。

### (解散)

第48条 この法人は、次に掲げる事由によって解散する。

(1) 総会の決議

(2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能

(3) 正会員の欠亡

(4) 合併

(5) 破産手続き開始の決定

(6) 所轄庁による認証の取消し

2 総会の決議により解散する場合は、正会員総数の4分の3以上の決議を経なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認証を得なければならない。

### (残余財産の帰属)

第49条 この法人が解散(合併又は破産手続き開始の決定による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会で議決したものに譲渡するものとする。

### (合併)

第50条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の決議を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。



## 第9章 公告の方法

(公告)

第 51 条 この法人の公告は、官報に掲載して行う。但し、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに掲載して行う。

## 第 10 章 雑則

(細則)

第 52 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事が別に定める。

附則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立時の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次の各号に掲げるものとする。
  - (1) 正会員  
入会金 10万円 会費 0万円
  - (2) 賛助会員  
入会金 0万円 会費 0万円
  - (3) 協賛会員  
入会金 0万円 会費 0万円
- 3 この法人の設立当初の役員は、第12条第3項及び第4項の規定にかかわらず、次に掲げるとおりとし、その任期は、第14条第1項の規定にかかわらず、平成15年11月30日までとする。
  - (1)代表理事  
氏名 西口 和憲
  - (2)副理事長  
氏名 古川 伸行
  - (3)理事  
氏名 和泉 静信
  - (4)理事  
氏名 嶋村 春市
  - (5)監事  
氏名 津田 好子
- 4 この法人の設立初年度の事業計画及び予算は、第39条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 5 この法人の設立初年度の事業年度は、第44条の規定にかかわらず、成立の日から平成15年11月30日までとする。

附則 第 12 条改正

この定款は、所轄庁の認証日平成 18 年 7 月 12 日より施行する。

附則(平成27年11月9日臨時總會決議事項)

この定款は、所轄庁の認証日より施行する。(平成28年3月1日施行)

但し、第2条改正については、平成27年11月9日施行

附則

平成30年9月1日 第51条改正 (平成30年8月29日臨時總會決議事項)

附則

令和3年12月16日 第44条改正 (令和3年12月16日定時社員總會決議事項)

但し、この法人の第20期の事業年度は第44条の規定にかかわらず、令和3年12月1日から令和4年3月31日までとする。

附則(令和3年12月16日 定時總會決議事項) 第1条、第3条乃至第5条、第14条改正

この定款は、所轄庁の認証日より施行する。(令和4年4月4日施行)